



Data

監督：熊切和嘉
 脚本：宇治田隆史
 原作：桜庭一樹『私の男』（文春文庫刊）
 出演：浅野忠信／二階堂ふみ／藤竜也／高良健吾／モロ師岡／河井青葉／山田望叶／三浦貴大／安藤玉恵／太賀／三浦誠己／広岡由里子／竹原ピストル／相良樹／康すおん／松山愛里／吉村実子／吉本菜穂子／奥瀬繁

👁️👁️ みどころ

第36回モスクワ国際映画祭での最優秀作品賞と浅野忠信の最優秀男優賞の受賞前から、「こりゃ必見！」と思っていた本作を、受賞後に鑑賞。そこでベタ誉めしても「後出しじゃんけん」のようだが、やはり二階堂ふみはいい。もちろん、浅野忠信も、そして作品全体も！

テーマは「禁断の愛」だが、そこに「養父(?)と養女(?)の」という形容詞をつけることが大切。それによって、作品の深みと二人の主役の異常性がよりハッキリと……。文部省推薦にはほど遠い問題作だが、人間をじっくり見つめるには、こんな映画こそ最高！



■□■「必見作」を後回しにしているうちに、すごい賞を！■□■

沖縄県出身の二階堂ふみは1994年9月21日生まれだからまだ19歳だが、園子温監督の『ヒミズ』（12年）への主演で、ベネチア国際映画祭における日本人初のマルチェロ・マストロヤンニ賞（最優秀新人俳優賞）を受賞した（『シネマルーム28』210頁参照）。したがって以降、彼女の出演作は必見！『脳男』（13年）だけは見逃したが、園子温監督の『地獄でなぜ悪い』（13年）（『シネマルーム31』247頁参照）、タナダユキ監督の『四十九日のレシピ』（13年）（『シネマルーム31』51頁参照）、深田晃司監督の『ほとりの朔子』（13年）（『シネマルーム32』115頁参照）、中島哲也監督の『渇き。』（14年）は、しっかり鑑賞した。『ヒミズ』で私は「二階堂ふみは第2の宮崎あおいに！」と書いたが、各作品におけるそんな評価どおりの演技に私は大満足だった。彼女の才能を最初に見出したのは園子温監督だが、その後彼女に興味を示した監督たちも、上記

のとおり個性派監督ぞろいだ。

本作を監督した熊切和嘉監督が、これも旬な女優・満島ひかりを起用した『夏の終わり』（12年）は興味深く鑑賞した（『シネマルーム31』83頁参照）が、『海炭市叙景』（10年）を私は見逃していた。しかし、同じ作家・佐藤泰志の書いた小説を呉美保監督が映画化した『そのみにて光輝く』（14年）（『シネマルーム32』166頁参照）は、素晴らしい作品だった。したがって、『海炭市叙景』も、いつかはどこかで「こりゃ必見！」。さらに、本作には浅野忠信が主演しているうえ、聞くとところによると本作のテーマは（父娘の）「禁断の愛」だというから、こりゃ必見！

そう思っていたが、上映館が不便なためつい後回しにしていたところ、何と6月29日付新聞各紙が第36回モスクワ国際映画祭で最優秀作品賞を受賞し、浅野忠信が最優秀男優賞を受賞したと報じたからビックリ！そんなすごい賞を受賞してから作品や出演者を誉めあげても「後出しじゃんけん」のようだが、それでも必見作には違いないので、平日の午前中わざわざ自転車で大阪ステーションシティシネマへ。雨の中を自転車で往復するのは大変だったが、やはりこりゃ必見！私の予想に何の狂いもなかったと確信！

■■■災害と復興ネタを執筆中のため冒頭の迫力がより強力に■■■

冒頭、暗いスクリーン上で流氷の中から必死で浮かび上がる二階堂ふみの姿が登場する。おいおい、これは一体ナニ？さらにその後、10歳の少女・花（山田望叶）がたった一人で海岸に打ち上げられるように辿り着き、歩き出すシーンが登場する。その後の展開を見ると、これは1993年、奥尻島を襲った北海道南西沖地震による津波被害だということがわかってくる。ちなみに、私は6月中旬以降『Q&A 災害をめぐる法律と税務』という本の追録作成のため、30本以上の原稿執筆に追われている。「東日本大震災復興基本法」と「東日本大震災復興特別区域法」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災のみに対応する法律だったが、その後、「災害対策基本法」の第1弾改正（平成24年6月）、第2弾改正（平成25年6月）がなされ、さらに平成25年6月21日には「大規模災害からの復興に関する法律」が制定された。さらに、12月4日には「国土強靱化基本法」「首都直下地震対策特別措置法」「南海トラフ地震対策特別措置法」という「国土強靱化関連三法」も制定（改正）された。そんな災害と復興に関する約30本の原稿を執筆中の本作鑑賞ただだけに、セリフはほとんどないが、導入部において強烈な印象を残す被災者・花の演技には圧倒された。

大混乱が続く被災地では遺体が発見されないことも少なくないから、一人生き残った花が地元の名士・大塩（藤竜也）の尽力もあって、遠い親戚だという男・腐野淳悟（浅野忠信）を父親代わりとして引き取られることになったのはありがたいことだ。もっとも、淳悟は16歳の頃に実母を締め殺そうとしたことから、花が生まれる直前の半年間、奥尻島で暮らす彼女の両親のもとへ預けられていたそうだから、およそ家族の愛には縁遠い男。

大塩はその事を心配し、淳悟に対して「お前なんかが父親に・・・」と言いかけたが、この際それは禁句！「今日からだ！」と自宅のある紋別に向かう車の中で、淳悟は花の手を握り、さらに「俺はおまえのもんだ」と呟いたが・・・。



私の男

2015年2月3日DVD発売 価格：4,200円(税抜) 発売元：ハピネット

©2014「私の男」製作委員会

■□■世に「二股かけ」は多いが、この二股はすごい！■□■

世の中に「二股かけ」はたくさんあるが、近時それで最も有名になったのは塩谷瞬。さらに、石田純一は「不倫は文化だ」と公言しているくらいだから、男にとって浮気はある意味当たり前。

あれから数年、スクリーン上ではギシギシと軋むような音が目立つが、これはどうも流水の音らしい。紋別の田舎町では今、中学生になった花（二階堂ふみ）と海上保安庁の巡視船で調理係として働く淳悟が二人きりで寄り添うように過ごしていた。30歳を少し過ぎたくらいに淳悟は地元の銀行に勤める恋人・大塩小町（河井青葉）と交際していたが、その「情事」はどことなくウソっぽい。小町を演じる河井青葉を私は本作ではじめて見たが、ベッドシーンやヌード姿はなかなかのもの。しかし、男がいくら「心ここにあらず」と思っても、シャワーを浴びている間に脱いだズボンのポケットをまさぐるのはいかかなもの・・・？さらに花へのプレゼントとして買ったらしい小箱を勝手に開けたり、そこで発見したダイヤのピアスを車の窓から捨ててしまうのもいかかなもの・・・？

他方、淳悟と花の生活はとにかく質素だ（というより貧乏くさい）が、熊切監督が描き出す二人の生活ぶりもどことなくヘンだ。養父と養女との間の禁断の愛＝性生活という、

どこかのポルノ映画のテーマみたいだが、そんなにおいがブンブンしている。そのうえ、二階堂ふみ演じる中学生の花は、人並み以上にませているうえ、性格がひん曲がっているようだ。淳悟の婚約者である小町をからかうような、挑発するような言動が目立つ。10年前の2004年に金原ひとみの『蛇にピアス』が芥川賞を受賞したのにはビックリしたが、小町が車から捨てたはずのピアスを舌の上に乗せて嬉しそうに小町に見せつける花を見てると、その小悪魔ぶりに啞然！これはひょっとして・・・。

そんな「期待」に違わず二階堂ふみがはじめて魅せる浅野忠信との大胆な「濡れ場」シーンに思わずゾクゾク・・・。しかし、制服を着て朝食を食べている朝っぱらから、そんなことをしているの？しかも、そんなシーンを早朝の散歩に来ていた大塩に目撃されたらしいが、さて・・・。世に「二股かけ」は多いが、この二股はすごい！

■□■これは事故？それとも未必の故意による殺人？■□■

雪に包まれた北海道の景色は美しい。また、流水がギシギシと軋むような音は気持ち悪いが、上空のカメラで捉えた流水の景色は美しい。しかし、海岸から少しづつ沖の方へ足をのぼしていくと、そこは危険がいっぱいだ。流水の上で新年会をやっていて海の中に飲み込まれてしまったバカがいるくらいだから、地元の警察が流水の上に乗って遊ぶのをきつく禁じているのは当たり前。ところが、町中でバッタリ花と出くわした大塩に、高校から旭川の親戚の家に身を寄せるよう強く勧められると花は・・・。

淳悟と花とのただならぬ関係を目撃した大塩は、孫の小町と淳悟との婚約が解消されたこともあって、花の将来を心配したわけだが、何よりも淳悟のことを大切に思い、淳悟との生活がすべてと考えている中学生の花にとって、そんな大塩の忠告は大きなお世話。聞きたくないのは当然だ。そこで花は逃げ出すように海岸の方に向かって歩きはじめ、ついには流水の上をどんどん沖の方に歩いていったが、さてこの先いったいどうなるの？大塩の方は、親切心から「ね、あんな男に所詮・・・家族なんて無理なんだよ。わかってた！」「アンタ知らないんだ！アンタとあの男は・・・」と真剣に語りかけたが、花の方は「そんなの知ってるよ！」と答えたばかりか、あまりよく聞き取れないわめき声で次々と大塩に反論。そのうえ、大塩の乗っている流水を蹴飛ばしたから、アレレ・・・。

その数日後、町を挙げての捜索の結果、流水の上でコチンコチンになっている大塩が発見されたから大変だ。さて、この大塩の死亡は事故？それとも花の未必の故意による殺人？

■□■重要な小道具、メガネが果たす役割は？■□■

本作で浅野忠信は寡黙な演技に徹しているが、モスクワ国際映画祭の最優秀男優賞にふさわしい見事な演技を披露している。しかし、私に言わせれば、浅野が本作で最優秀男優賞を受賞するなら、実年齢19歳で、エキセントリックな中学生と高校生役を見事に演じ、かつ、オールヌードにはならなかったものの、かなり過激なベッドシーン(?)も披露し

た花役の二階堂ふみも最優秀女優賞にふさわしい演技だ。中学生の花はメガネが手放せないほどのド近眼のようだが、全然ガリ勉タイプとは思えない花をなぜド近眼の女の子に設定したの？それは、流氷上での大塩殺しに関連を持たせ、前半から後半につなぐ役割をメガネに託しているからだ。

大島渚監督の『愛のコリーダ』（76年）では、時代の先端、過激性の先端を走るといえる吉蔵役を堂々とやりきった若き日の藤竜也が、本作ではホントに善人の老人・大塩役を見事に演じている。大塩の死亡後、タクシーの運転手をしながら、高校に通う花と一緒に東京で生活している淳悟に、ある日来客が。それは、紋別の有力者で町の精神的支柱であった大塩に誰よりも恩義を感じ、その忠誠心を示して憚らない紋別警察署の警察官・田岡（モロ師岡）だ。警察官は普通ベアで動くものだが、田岡が一人だけでここにやってきたのは、紋別という小さな警察署では出張予算が十分とれないため？それとも、公的捜査ではなく、大塩への忠誠心から田岡が私的に捜査を進めているため？それはともかく、花の留守中、淳悟の家の中にズカズカと上がり込み、淳悟に見せたのが、花がああ時かけていたメガネだ。このメガネはどこで発見されたの？そんな物的証拠があれば……。そこから展開していく第2の殺人事件から本作の後半が始まるが、そんな意味で本作の重要な小道具としてのメガネに注目！

■□指しゃぶりの異様性を、あなたはどうか解釈？■□

他方、中学生の養女と養父との爛れた性関係といえばポルノチックだが、そこにはさらに指のしゃぶり合いのシーンがたくさん登場するから、さらにポルノチックに……。？タクシー乗務員として働く淳悟が事務員（広岡由里子）に給料の前借りを頼む時、淳悟は領収書に拇印をおすよう求められたが、そんな風景は世の中にくらでもあろう。ところが本作が特異なのは、拇印を押した淳悟の指を事務員が嗅ぎ、「やーね。年頃の娘ってね、潔癖よ。……に・お・い」と冷やかされること。洋服を買ってくれと頼んだ娘が17歳で、そのために今、前借りを頼んでいる父親が37歳。ということは、ひょっとして……。

指しゃぶりのシーンは淳悟と花との性愛（？）でもくり返されるし、あるシーンでは淳悟が一人で指をしゃぶりながら恍惚感にひたるシーンもある。さらに、美しいOLに成長した花が、ゴミ屋敷のような淳悟の家にデートのお相手・尾崎美郎（高良健吾）を連れてきた時、淳悟が美郎の指を嗅ぎ、舐めるシーンもあるが、その気味悪さには咄然……。

熊切監督、そこまでやるか！そのお見事さに拍手。きっと、熊切監督がここまで徹底的にやりたいようにやったことが、モスクワ国際映画祭での最優秀作品賞受賞の理由の一つだろう。

■□美しく成長した花の結婚相手は？■□

花が大きな会社の受付嬢をしているのは、それなりの美人に成長したためだ。紋別時代は度のキツイメガネをかけたイモ姉ちゃんのような雰囲気だった花も、美郎に対して淳悟が「もういいよ。帰れよ。お前には無理だよ」と言って追い返した頃を境に、淳悟の家を出て独立したらしい。もっとも、美郎は父親が親会社の専務という血筋で、同僚から「お前の魅力は権力だ」と冷やかされるほどのエリートだから、互いに父親に対して複雑な感情を抱いていることを考え合わせれば、花には美郎は格好のお相手・・・？

しかし、3年ぶりに高級レストランで再会した淳悟の前に今、花と並んで座っていたのは大輔（三浦貴大）だった。ここでは花は25歳になっているはずだが、東京でのOL生活を何年も続けた中であか抜けしたためか、そこに見る花はかなりの美人。メガネはもちろんないから、目の中にはコンタクトレンズが入っているはずだ。美郎を家に入れた時に甘えながら淳悟にとってもらっていたコンタクトレンズを、今は大輔に取ってもらっているの？



私の男
2015年2月3日DVD発売 価格: 4,200円 (税抜)
発売元: ハピネット
©2014「私の男」製作委員会

■□■花の結婚の行方は？この父娘の今後は？■□■

それに対して、42歳になったはずの淳悟は今何の仕事をしているのかよくわからないが、年以上にくたびれている様子が目立つ。明日は花の結婚式らしいから、淳悟がそれなりの服装を整えているのは一応わかるが、そのアンバランスさも目立っている。しかして、大輔からの「何か飲みますか？」との言葉にも応えず、ワケのわからないカタカナ文字の料理の注文も大輔に任せきりの淳悟の足は今・・・？

一流レストランともなれば、テーブルの下はテーブルクロスできっちり隠されているのかと思ったが意外にそうでもなく、淳悟と花の足はテーブルの下で一体どのような活動を・・・？そこでの淳悟のセリフもまた、「お前には無理だな」だったが、さて美しく成長した花の明日の挙式の行方は？

『私の男』という本作のタイトルを見れば、二人の間では花の主導権がハッキリしているようだが、花の結婚後はそれがさらに強まっていくの？それとも・・・？

2014 (平成26) 年7月4日記